

かえる  
蛙

金子みすゞ

にくまれっ子、  
にくまれっ子、  
いつでも、かつでも、だれからも。



あめ  
雨がふらなきや、くさ  
草たちが、  
「なんだ、蛙め、なまけて。」と、  
それをおいらが知る事か。



雨がふり出しゃ子どもらが、  
「あいつ、鳴くからふるんだ。」と、  
みんなで石をぶつつける。

それがかなしさ、くち  
口おしき、  
こんど  
今度はふれ、ふれ、ふれ、となく。



なけばからりと晴れあがり、  
ばかにしたよな、にじが出る。

すこし背たけをのぼした稲の緑があざやかな雨の季節がや  
ってきました。雨がふると蛙の音がうれしそうに鳴いてい  
るようにきこえます。雨の音とかえるの声、季節を知らせて  
くれるシグナルのようですね。

